

人工呼吸器部会 ラウンドテーブルディスカッション

『人工呼吸療法への安全と質の向上に向けた取り組み』  
～様々な施設の臨床工学部門の取り組みを知り、共有する～

日本赤十字社和歌山医療センター 医療技術部 臨床工学技術課

○山下 繁

臨床工学技士法公布 30 周年の本年に開催される近畿臨床工学会・呼吸部門 RT として、国家資格として臨床技士が誕生した経緯を再考し、人工呼吸療法での技士に求められる役割や真の専門性を議論、情報共有できるセッションを企画いたしました。

「医療機器の安全」に関しては、第五次医療法改正で医療機器安全管理責任者の設置や管理指針が提唱され、技士が実施すべき業務が明確なものとなりました。また、「人工呼吸療法の安全」は、呼吸ケアチーム加算の保険収載を契機に、その内容・質ともに向上し、全国的にもチーム構築による緊密な職種間連携により組織横断的活動が盛んに行われています。

企画担当者が考える「技士が担う安全」とは、技士が関わる全領域の業務における基盤となり得るもので、患者やスタッフが安心して装置を使用できる環境や情報を提供することでもあります。実際には、管理指針で提唱された内容を確実にかつ効率的に行うことであり、中でも特に重要な事は、運用に必要な情報や知識を技士部門が常に更新・共有し、関連スタッフに対して継続的に情報提供を行えるシステムを構築することであると考えます。そして、このようなサイクルが安全や治療の「質」の向上に繋がると確信しています。

本セッションは、和歌山県外の近畿各府県より、様々な規模のご施設の技士をお招きし、人工呼吸療法の安全や運用に関する質の向上に焦点を当て、その取り組みや今後の展望をご講演頂き、運用や方法論を共有することを目的としております。演者やご参加頂いた皆様からの忌憚のない意見を拝聴することも楽しみにしております。

我々技士が何を求められ誕生し、今後どういった人材を育成し、知識として伝えていくのか…専門性を生かした人工呼吸療法業務の方向性を少しでも見いだせれば企画担当者として幸甚です。

最後にご多忙な中、ご講演の依頼を快くお引き受け頂きました演者の皆様に心より御礼申し上げます。